

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2015年11月30日～2015年12月6日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成27年12月14日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼軍の共同グループに関する「アブハジア共和国国防相」の発言(12月1日)

・キシマリヤ「アブハジア共和国国防相」は、11月26日に露・アブハジア間で合意が結ばれた軍の共同グループの設置について、既に配備される場所は決まっており、設置にかかる作業は2018年までに完了すると発言。

2. 外 政

▼外相の訪英(29日―30日)

・クヴィリカシヴィリ外相はロンドンを訪問し、イギリスのハモンド外相、リディントン欧州担当大臣、モード通商・投資担当大臣、英ビジネス界の代表者らと会談。「リ」欧州担当大臣は、英国はジョージアのEU・NATO加盟を強く支持し続けると述べた。

▼欧州委員会などへの国会書簡(12月1日)

・国会は、欧州委員会および欧州評議会に対し、EU・NATO加盟はジョージア国民の強い意志かつ歴史的選択であり、査証自由化はEU・ジョージア協力の最も重要な問題であるとして、ジョージアの達成した前進に対する評価がEUの決定に適切に反映されるよう求める書簡を送付。

▼国防相のベルギー訪問(12月1日)

・ヒダシェリ国防相がベルギーを訪問。ヴァンデプット・ベルギー国防相と会談。二国間協力やジョージアのNATO加盟の見通しなどについて議論。コスタラコスEU軍事委員会委員長とも会談。

・EU議会安全保障・防衛下部委員会に出席し、EU・ジョージア協力やEU危機管理行動へのジョージアの参加などについて議論。「ヒ」国防相はロシアによる占領、黒海地域の安全保障などに焦点を当てて演説した。

・ベルギーにて、チャヴショール・トルコ外相とも会談。

▼NATO外相会合(12月1日―2日)

・NATO外相会合では、モンテネグロを29番目の加盟国として招待することが決定された。会合後の記者会見で、ストルテンベルグNATO事務局長は、「この決定は、NATO加盟を目指すボスニア・ヘルツェゴヴィナ、ジョージア、マケドニアに対し、改革の努力は報われることを示している」「NATOの扉は開かれている」と述べた。

・外相声明は、ジョージアに関し、NATOに加盟するには、MAPの獲得が必須であることを改めて確認したと述べている。また、NATOの主導するアフガニスタンでのミッションへのジョージアの貢献を高く評価しつつ、「ジ

ョージアは、NATOとの関係において、最終的な加盟に向けた準備を行なうためのあらゆる手段を有している」「NATOは民主主義の強化に向けたジョージアの努力を認める」「メディアの自由および法の支配に関する最近の動きを考慮し、我々は総合的な改革努力の勢いを維持するようにジョージアに促す」と述べている。

・ジョージア外務省は、NATOによる門戸開放政策の継続を歓迎する声明を発表。

・会合に参加したクヴィリカシヴィリ外相は、ジョージアはNATO加盟に必要な条件を全て備えているが、決定にはNATOの中での準備が必要であると述べた。

・「ク」外相はトルコ、ハンガリー、ルーマニア、スロバキア、アイスランド、ルクセンブルグ、イタリアなどの外相と会談。チャヴショール・トルコ外相との会談では、両国の戦略的パートナーシップと国際的なエネルギー・輸送の分野におけるプロジェクトを含む密接な協力を確認。また、バクー・トビリシ・カルス鉄道プロジェクトの重要性についても議論し、更に、地域における安全保障状況についても意見を交換した。

▼国防相のアゼルバイジャン訪問(12月2日)

・ヒダシェリ国防相がアゼルバイジャンを訪問。アゼルバイジャンのアリエフ大統領、ラシザデ首相、ハサノフ国防相と会談。

・「ア」アゼルバイジャン大統領との会談の議題の一つは、戦略的なエネルギー輸送施設の防護であった。会談後、「ヒ」国防相は、「我々は、パイプラインの保全を含む、戦略的協力について議論し、必要な措置を検討した」「我々の地域で好ましくない事態が起こっていることを考慮すれば、戦略的施設は高いリスクになり得る。脅威を防ぐべく、両国の更なる努力が必要である」と述べた。

・「ハ」アゼルバイジャン国防相との会談では、二国間の国防協力や国際的な平和維持活動への参加に焦点が置かれた。「ヒ」国防相は、「ジョージアとアゼルバイジャンはアフガニスタンでの平和維持活動やResolute Supportミッションへの貢献に関し、協調して行動しなければならぬ」と述べた。

▼OSCE外相理事会会合(12月3日―4日)

・ベオグラードで行なわれたOSCE外相理事会会合にクヴィリカシヴィリ外相が参加。「ク」外相はOSCE地域が直面している危機やジョージアの被占領地域の深刻な人権・安全保障状況、最近のジョージアの政治・民主改革などについて演説した。

・会合に並行し、「ク」外相はモンテネグロ、スロベニア、フィンランド、マルタ、アンドラ、ブルガリアの外相、

ザニエル OSCE 事務局長らと会談。

▼GUAM外相会合・「GUAM+日本」外相級会合(12月3日)

・OSCE 外相理事会会合の一部として、ウクライナを議長国とする定例の GUAM 外相理事会会合が行なわれた。クヴィリカシヴィリ副首相兼外相、メメディアロフ・アゼルバイジャン外相、ゲルマン・モルドバ外務・欧州統合相、クリムキン・ウクライナ外相、チェチェラシヴィリ GUAM 事務局長が出席。

・GUAM 内における政治分野の現在の主要な問題や国会間協力が取り上げられた。また、米国、日本などのパートナー国やその他の国際的・地域的機関との「GUAM+」の枠内での協力を肯定的に評価。

・2016 年 1 月から議長国がアゼルバイジャンに移り、GUAM 事務局長がアルタイ・エフェンディエフ氏に交代すること決定された。

・その後、「GUAM+日本」のフォーマットの定例会合が行なわれ、GUAM 各国外相および武藤外務副大臣が出席。共通の関心分野における協力の強化を促進する GUAM・日本協力プログラムに署名した。

3. 内 政

▼ISILとの関係の容疑による4名の逮捕(29日)

・12月1日、イゾリア国家保安庁副長官は、同庁対テロ部隊が11軒の家宅捜索を行ない、ISILと関係を持つ疑いで男性4名を逮捕したと発表した。捜索の際、4名の家から手榴弾、拳銃、弾丸、ISILの旗などが押収されたとして、「逮捕者がISILと関係を持っており、テロ行為を支援していたことを明らかにすべく捜査が進められている」と述べた。

・「イ」副長官は捜索が行なわれた場所は特定しなかったが、メディアでは既にグリア地方オズルゲティ地区ナサキラリ村と報じられていた。11月23日に公開されたジョージア語によるISILのプロパガンダ動画に映っていた4名の男性のうち少なくとも2人も同村の出身。

▼内務省の新たな交通安全プログラム(12月3日)

・ジョージア内務省が、交通事故の減少や運転手・歩行者らの安全性の向上を目的とした新たな交通安全プログラムを発表。プログラムのなかで計画されている法改正には、公共バスに対する監督の改善、移動式速度測定器の使用、都市部での夜間照明に関する対策、2016年3月以降の右ハンドル車の制限、交通規則違反に関する点数制の導入などが含まれる。

・内務省は2016年3月以降、国内での右ハンドル車の新たな登録の禁止を計画しており、今後、国会で法改正が審議される予定。6日には右ハンドル車の保有者らがトビリシ市内で計画に対する抗議行動を実施した。

▼反汚職指数(12月3日)

・Transparency International (TI) が発表した汚職のリスク

の高さを示す評価で、ジョージアは前回からやや改善。A(汚職のリスクが最も低い)からF(最も高い)のうち、2013年2月に発表された評価ではジョージアはDであったが、新しい評価ではCとされている。Cには他にオーストリア、ブルガリア、クロアチア、チェコ、仏、ギリシャ、ハンガリー、伊、リトアニア、セルビア、韓国、スペインなどが含まれる。

・TIは、国防省が改革を通じてより透明になったと評価。

▼財務省捜査局長の任命(12月3日)

・バダシヴィリ前検事総長が財務省捜査局長に任命された。2006年から2013年まで同局に勤務していた。

・財務省によれば、バルナビシヴィリ前捜査局長は財務次官に任命される予定。

▼駐英大使への前外相の任命(12月4日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領はベルチャシヴィリ前外相を駐英大使に任命。「ベ」新駐英大使は2004年から2010年まで欧州・欧州大西洋統合担当国務次官、2013年4月より外務次官、2014年11月より約10か月外相を務めた。

▼サーカシヴィリ前大統領の国籍の喪失(12月4日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領は、現在はウクライナでオデッサ州知事を務めるサーカシヴィリ前大統領のジョージア国籍を喪失させる大統領令に署名。大統領府は、「サ」前大統領を含む複数の人物が他国の国籍を得たためにジョージア国籍を喪失したと発表した。

・ツルキアニ法相は、法務省は通常の手続きに沿って11月3日に「サ」前大統領に対しジョージア国籍の喪失について通知したが、「サ」前大統領から回答がなかったとして、1か月の期限の後、法務省は判断の結果を「マ」大統領に伝えたと述べた。

・4日、「マ」大統領は、「サ」前大統領がジョージア国籍の喪失を選択したことで、ジョージアを「侮辱した」と述べた。

・5日、統一国民運動は、「サ」前大統領に代わる新しい党首を選出しないと発表した。

▼大統領府事務局長の任命(12月5日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領はアバシヴィリ大統領経済補佐官を新たな大統領府事務局長に任命した。2013年11月に「マ」大統領が就任して以降、3人目の大統領府事務局長となる。

▼恩赦に関する正教会総主教の発言(12月5日)

・イリア2世ジョージア正教会総主教は、ガリバシヴィリ首相らとともに女性受刑者らによる演劇を鑑賞した後、「総主教は受刑者の恩赦を行なう権限を持つべきであり、政府はこの問題を取り上げるだろう」と述べた。その後、「ガ」首相は大統領および国会に対し、総主教の要請に関する議論を始めるよう呼びかける声明を発表した。

・現行のジョージア憲法では、恩赦を行なうことができるのは大統領に限られる。恩赦に関する大統領の諮問機関である9名の委員会には、ジョージア正教会の代表者

が1名含まれている。

・6日、ウズベク国会議長は、恩赦を行なえるのは国家元首のみであり、それ以外の前例はないと述べた。

4. 経 済

▼2015年10月のGDP成長率(30日)

・国家統計局が速報値を発表。2015年10月の実質GDP成長率は前年同期比3.0%。2015年1月～10月の実質GDP成長率の平均は前年同期比2.8%。

▼2015年1月～11月の入国者数(12月2日)

・内務省の発表した資料によれば、2015年1月～11月の入国者数は5,431,723人で前年同期比6.9%増。

・11月の入国者数は436,234人で前年同月比8.4%増。11月中の入国元別では多い順にアルメニア(119,159人、前

年同月比1.1%減)、アゼルバイジャン(115,224人、同21.9%増)、トルコ(105,069人、同2.2%増)、ロシア(55,201人、同7.1%増)、ウクライナ(8,970人、同2.1%減)、イスラエル(3,342人)。カザフスタン(1,888人、同30%増)、ベラルーシ(1,284人、同52%増)などからの入国者数の増加が著しい。EU諸国からの入国者数は11,113人(同8.7%減)。

▼2015年11月のインフレ率(12月3日)

・国家統計局が速報値を発表。月間インフレ率は0.3%。食料品・非アルコール飲料の価格が0.9%、輸送費が1.4%低下。

・年間インフレ率は6.3%。食料品・非アルコール飲料の価格が5.2%、医療費が11.5%上昇。